

ぜんしゅうきょう

全宗協



通巻81号

平成27年度全国研修会を京都で開催!!

平成27年10月7日(水)・8日(木)、京都のメルパルクKYOTOにて全国研修会が開催されました。参加者は74名。「PRRAY for(ONE)をキーワードとした業界統括の方向性の検討」という研修テーマで、2日間で6名の外部講師にお越しいただき、合計11時間の講演会で充実の研修会となりました。

司会は株式会社吉田治市商店の吉田光宏氏。小堀賢一理事長の開会挨拶の後全国研修会は幕を開けました。一日目は四名の講師による講演会、二日目は二名の講師による講演会の後、新しい試みとしてワークショップが開催され、みなさんで活発に意見を出し合い、班ごとにプレゼンテーションを行いました。

小堀理事長挨拶



小堀賢一理事長

この一泊研修は恒例になりましたが、ようこそお越しいただきありがとうございます。二日での八講座、合計十一時間ほど勉強していただくわけですが、このカリキュラムをご覧いただきますとたとえば「愛されて、許されて」「日本人の心は「祈りの経営」と続いている。十年ほど前のカリキュラムでは金箔や漆について、或いは唐木仏壇の種類にはどんな



司会の吉田光宏氏

ものがあるのかというようなテーマの講座が多かったのですが、十年前からの流れが変わってきた事を皆さん気づいていただけたと思います。講座の一つずつ、また、鶴の折り紙を折るといふことを推進してありますが、この端末の一つずつでは我々が何をやるうとしているか分からないかもしれせん。今までは宗教用具を「物」として作り販売してきましたが今後は宗教用具の「役割」を確認して推進していこうということ、簡単にいえば「ハードからソフト」へということになるかも知れません。

違う言い方をすれば、物作りや物を売るに当たっては同業者をライバルとして意識しているのですが、今我々がやるうとしてるのは、同業者がライバルではなく、日本人の生活文化・生活様式とは違った生活様式がライバルになる。ですから十年前とは全く違った講座が組み込まれるようになっています。どうぞ十分に吸収していただければと思います。宜しくお願いいたします。

【目次】			
P1	小堀理事長挨拶	P7	ワークショップ
	《ご講演》	P8	
P2	(一日目) 葛田吉昭氏	P9	研修会総評
	鈴木啓之氏	P10	仏壇公正取引協議会からの
	門脇健氏	P11	お知らせ
	三枝輝行氏		小堀理事長叙勲祝賀会
P6	(二日目) 新倉典生氏	P12	仏事コーディネーター試験合格者一覧
	稲葉圭信氏		事務局からのお知らせ



熱心に受講される参加者のみなさん

「PRAY for ONE」プロジェクトとは何か。その戦略と展開について

株式会社 博覧堂 テーマビジネス開発局
エグゼクティブクリエーター
葛田 吉昭氏



プロフィール

1984年、博覧堂入社。コピーライターとして通信・IT、保険などの広告制作後、博覧堂生活総研・客員研究員、「広告」副編集長、東日本大震災・内閣官房広報アドバイザーを歴任し現職に。

そして私が出会った最大の祈りは東日本大震災の時です。私はすぐ政府に行き、国の役所から出る難しい文章を現地のお年寄りでも分かるような易しい言葉にする仕事をしました。私はそれを壁新聞にして自衛隊のヘリコプターで運び、避難所に貼ってもらいました。それによって若い人よりお年寄りが情報を持っているという情報の逆転現象が起きました。これも私なりの祈りだったのだと思います。以上が私の個人的な祈りの体験です。

個人的な「祈り」という話をさせていただきました。私は神社にはよく行きますが特に決まった宗教はありません。ただ私にも「祈り」がありました。一つ目は小学校六年の時、学校の帰りに交通事故に遭い二十メートル飛ばされ、意識が無くなりました。幸い背負っていたランドセルがクッションになり頭を打たずに済みました。ランドセルに付いていたお守りが守ってくれたのだと思います。その後両親に連れられてお寺にお参りし、初めて「ありがとう」とお守りに、生きていくことに感謝して手を合わせました。この世には計り知れないものがあると感じたのがこの時の体験でした。二つ目は大学受験の日のこと。当日は風邪をひいて意識が朦朧としていたのですが、母親の作ってくれたお弁当を食べようとした時、そこに「合格をお祈りしています」と母が書いた紙を見つけました。その瞬間にあの「走れメロス」のように私は誰かのために、何か大きなものに走らされていると感じました。その後試験を頑張って無事合格し、母親の書いた言葉で自分は大きなものに祈られているのを感じました。三つ目は大学に入った私を訪ねて父親が突然下宿にやってきました。そして「吉昭よ幸いなれ」という言葉を残して帰りました。その一文に父親の祈りを見ました。

お寺や教会に行つて手を合わせるのも祈りですが、日常の中にも祈りはたくさんあります。では東日本大震災での祈りは何であったのか。読んだ本の中に「祈りの作法」という本があり、その中で著者玄侗宗久さんは「震災で分からないもの、見えないうものが重視される兆しが見えて来た」と言っています。私が作ったCMビデオの中で、ご家族を亡くした方が万感の思いを表すのにしたことはただ海に向かつて手を合わせることでした。逆に最悪の情報を流すことが呪いになるということもありました。天皇陛下は公務の予定を変えなかった。変えずに行動することが陛下の祈りでした。祈りとは行動です。NHK朝トフの「あまちゃん」は東北を元気にしました。成長や成功より、価値の更新が大事であることを訴えたからです。自粛より笑うこと。肩の力を抜き、頑張らないけど決して諦めない。他者を応援する。これらも一つの「祈り」であり、このドラマの成功要因がありました。しかし今、あの時の気持ちが無くなってきています。

ここまでが「祈り」の時代背景で、ここから「ライフオーワン」の振り返りをしていきます。生活の多様化などで仏壇や仏様に祈るといふことが少なくなり、春分の日・秋分の日の「お彼岸」もただの休日。葬式も家族葬、老人ホームでは仏壇を飾ると

嫌われるので隠してしまつた。このままでは祈りが風化して行く。そんな中で祈りを文化にして行こうというのがこの「小さな祈り」プロジェクトです。地球温暖化防止でクールビズというアクションを起こしたように、祈りにも行動が必要。その第1が「ライフオーワン」というネーミング。自分ではない(誰か)のために祈るといふ行動。「祈り紙」はそのための象徴であり一つのアクションです。そしてもう一つの行動が拡散すること。映像化やCM、ホームページ、これらの活用がこれからの反省と課題です。折つた鶴がどうなるのかを明示してほしいという声があるので、祈りの方向を明確にして行こうと思っています。解決策ですが、まずは目標設定。今行政も企業も二〇二〇年東京オリンピックを目標に動いています。時間を明示することによりドリールムがビジョンに変わります。二〇二〇年戦略」です。アイデアとして、スポーツ用品メーカーとタイアップして用具を使つてくれる選手に祈り紙を届けたり、子供たちに向けて祈り紙を普及するという方法もあるかなと思います。またフェスイ

愛されて、許されて



プロフィール

17歳でヤクザの世界に入り、その後劇的転機を果たし、神学の道へ。1993年韓国系長老教会でのインターン活動を経て、シロアムキリスト教会を、その後「人生やり直し道場」、「ふるさと志絆塾」を開設。

皆さんこんにちは。牧師をしています鈴木と申します。

出会いによって人の人生は変わります。振り返ってみると、こんな弱い自分がそこに立ち続けることができたのは、実は多くの人たちの祈りであったことがその後の人生で初めてわかります。私の生まれ

ブックの活用。自衛隊が災害救助に出動したことに対しても「祈りたい気持ちだった」という声が多く寄せられ、それがフェイスブックに載る。そこにも沢山の祈りがありました。博覧堂出身の人たちが呼びかけて街をきれいにする活動をやっていますが、その若者たちに祈り紙を広げていく。ホームページにもこちらから書いて発信して行き、有名な人にも書いてもらおう。双方向のコミュニケーションができたときにこういう運動は発展する。既にあるホームページを「小さな祈り」を前面に打ち出し活用するということです。異業種交流の場の活用もあります。どこかのお寺で着物を着た女性や子供が祈り鶴を折り、それをネットで配信するのは、教会でも神社でもいいです。大切なのはみんな一緒に祈ることです。

最後に、日本人の中には祈りが引き継がれていきます。この国は四十九日とか一周忌とかいう時間の中で大きく動いています。そういうものの中に「小さな祈り」がある。そのことを多くの方に知っていただきたいと思っています。

シロアムキリスト教会 主任牧師

鈴木啓之氏

育つた家庭は、仏壇や神棚がある日本のごく普通の家庭。ある時その仏壇も神棚も家庭から無くなった時期がありました。父親の経営していた会社倒産し、時代の波に流され翻弄されながら父親は葛藤し苦しみながら私たちを支え育ててくれました。小学生になる頃、私が大きな怪我をしました。家に仏壇が帰ってきました。それから毎日仏壇に手を合わせて祈ることが当たり前の生活になりました。それがどういつ意味を持っているのかその時は分かりませんでした。そこでの親が積んでくれた徳、蒔かれた種が存在していました。それを知ることができたのがあのどん底の中で教会に飛び込んだ時です。人の人生で最後に開く扉があるとすれば、それが宗教なのかも知れません。

私は十七歳の時にヤクザの世界に飛び込み、悪いこともたくさんしました。そんな中、両親と弟の三人が何と僅か五年の内にこの世を去りました。肉親が死んだら世の中が変わるようになっていました。何も変わらず、残ったのは墓石に刻まれた人の名前だけ。人の人生とは何なのだろうか？ 好き勝手に生きればいいのかと短絡的に思いました。いつも逃げて隠れて、それが自分の人生でした。気が付いてみたらほとんどヤクザの世界に染まっている自分がいました。十七年目に考えてもいなかったような事態に陥り、守ってくれるはずのヤクザの仲間から追われる立場になった時、私は自分を守ることで精いっぱいでも子供も捨てて出て行きました。強かったはずの私は逃げるだけ。弱いはずの妻が命を懸けて子供を守っていました。東京に逃げて来たのですが、酒や薬に逃げ場を求め、これで自分の人生が終ってしまうのではないかと、毎日が不安でした。やがて幻覚に苛まれるようになり、その恐怖を恐れて飛び込んだのがあの教会だったのです。幻覚の中で、自分は地獄に落ちる、神仏のバチが当たったと思いました。それに耐えきれず、ただ助かりたい一心で教会の扉を叩き、命乞いをしました。

そこで一人の先生に出会い、私に信じられないような言葉を投げかけてくれました。「あなたは愛されているですよ」と。その言葉が理解できなかった私はその先生に「あなたに何が分かるんだ」「こんな俺が愛されるはずがない」と食って掛かりました。先生は私の肩にそっと手を置いて「神様はあなたを愛しているのですよ。心を開いて助けて下さいと言っただけなんです」と言っただけでした。長い間ヤクザをしていて神様仏様などという言葉は忘れていましたが、ドン底に落とされた時自分の心の弱さに気づき「助けて下さい」と泣きながら叫んでいました。信ずる以外道はありませんでした。どん底で出会わなければいけないものに出会いました。本当

の自分、弱い自分と出会うことが人生の入り口、ドン底が自分のセカンドチャンスです。私は人生には無限に可能性があると思っています。目に見えない神を信じた時自分が変わって行くことを教えられました。

今夢を持ってないから苦しいという若者がいっぱいいます。私はせめてこんな子たちの愚痴だけでも聞いてあげたいと思ひ、ススキノに「平成駆け込み寺」という教会を作りました。私も教会に駆け込んだことで救われ、それがセカンドチャンス。その入り口になりました。そのチャンスを掴むにはあらゆる物を見えなくしている固定概念を変えることです。だからこそ固定概念を超えて見えない存在の神仏が必要なのです。変化は楽なことではありません。しかし変えることによって、その先どうなるかが具体的に見えて来ると乗り越えられます。

数日前、三回の入出所を繰り返した後うちの「やり直し道場」で生活していた男性が見事医者になりました。諦めない限り無限の可能性はあります。この時代を担っていく若者たちに「諦めないで！」と叫び続けたいと思っています。

人が予想もしないような状況に苛まれた時どうやって立って行くのか。私は目に見えない心の中に希望があれば乗り越えられると思います。こんなどうしようもない私を、妻は目に見えない神に祈りながら待っていてくれました。丁度私と妻と子供を捨てて逃亡生活に入って一年経とうとする頃、忘れていた妻や子のことを思い出して、気が付いたら新幹線で妻子の所に向かっています。許されるはずがない、受け入れられないはずがない、そう思っていました。まるで何事も無かったように、妻は私を迎えてくれました。一体何がそうさせたのか、私は祈りの力を信じています。

祈りが崇高なものになった時、自分のためではなく、誰かのためという心に祈りは変えてくれるのではないかと。そんなことを祈って自分の

活動をさせていただいているのですが、曾野綾子さんが書いた「運命を楽しむ」という本の中に彼女が考える人生の成功として二つ書かれています。一つは「生きがいの発見」と、もう一つは「自分以外のものでは代替がきかない地点を見つけること」。みんなを照らすことはできなくても、一本の口ソウクの灯のようになって、自分の周りだけ

日本人の心は、いま、どこに。



プロフィール
福井県生まれ。京都大学大学院文学研究科宗教学専攻博士後期課程退学。1991年より大谷大学哲学科教員、現職に。

大谷大学で哲学の教鞭をとっています。一方では北陸の方の大谷派の寺院の住職をしております。

先日宗祖親鸞聖人の七五〇回御遠忌をお勤めしたのですが、最近では半分くらいのお寺では「お金をかけてまでも……」という現状です。経済状態が良くないということもありますが、若い人たちがせひとも御遠忌をお迎えするというようなことになかなかならず、年配の人も若い人に参加しないという自信を持って言えない状態です。それは我々住職にも責任があります。死生観の曖昧さという問題です。例えば最近「西方浄土」という言葉が殆ど使われなくなっています。浄土真宗のお葬式なのに弔辞で「天国で安らかに眠り下さい」、「冥福をお祈りします」という言葉が使われ、テレビでも「天国で今頃」と言われます。今はお坊さんですら「西方浄土」とは言わなくなりました。一つには明治以来の科学主義がありますが、浄土のことばかり心配して「今」「ここ」を生きているということが

でも照らすこと。それなら私にもできますから、一人でも多くの人にその灯を分け合いながら暗い場所を明るく照らし、いつかはもつと世の中を明るい場所に変えられるように、これからもこの活動を続けさせていただきたいと願っています。私の話はこれで終わらせていただきます。

大谷大学文学部
哲学科(宗教学)教授
門脇健氏

疎かになるのではないかと考え方に圧倒されて「西方浄土に往生する」ということが曖昧になっているのです。親鸞さんは「如」という真実の世界から「チラ」とアチラという二つの世界が生まれているという言い方をします。

我々人間には想像力があります。この人間の想像する力はどこから来ているのか？ 恐らくそれが「仏」という形で、とりわけ真宗では「法蔵菩薩」として「浄土」という形で継承されているのだと思います。そのあたりのことを僧侶は今一度考えておくべきでしょう。

さて、このように死生観が曖昧になってしまっている現代は、「四門出遊以前」とも言うべき時代です。お釈迦様がお城の東門から出て老人に会い「老」の現実を知る。古代から人間は若く元気な間は年取って行くということが想像できませんでした。翌日南門から出て病人に出会う。また次の日は西門から出て死人に出会う。そして四日北門から出て出家者に出会う。

が身体で分かりません。年寄はいつの間にか消えている。死が見えなくなっている。これはすごく怖いことです。学校の先生にも一回もお葬式をしたことが無いという人がいっぱいいます。だから「命は大切なもの」とは教えても「人間は死ぬもの」と教えようという発想が無い。現代の日本の状況はお釈迦様の「四門出遊」以前と同じなので、お釈迦様のように門から出て「生老病死」と出会ったことが大切ですね。

現代社会は「都市文明」のうちに発展してきました。もともと「社会」は家庭を維持するために発展して来たはずですが、それが今は逆転して、社会を維持するために家庭がある。社会と家庭が完全にひっくり返っています。家庭や家族にこそ人間の人間たる由縁があります。それは「死」を内包しているからです。家族とは死者を含んで家族。人間は死を含んで人間であったという事です。私の専門はドイツのヘーゲルという哲学者ですが、彼はドイツ語で「ガイスト」という言葉を使います。哲学では「精神」と訳すのですが、「幽霊」という意味もあります。人間の精神には死者が含まれているのです。

人間は生まれるとそこに家族が形成されるのですが、そのとき赤ちゃんは仰向けに寝かされます。自然界では非常に危険な姿勢です。そこを覗きこんで顔を見合わせる。それが家族・家庭です。ものすごい信頼関係があつてこそできる。ある意味では死を賭して信頼関係を作っています。また人間の赤ちゃんのおっぱいの吸い方は他の動物とは非常に違い、赤ちゃんは途中で休みそしてまた吸う。つまり栄養摂取を犠牲性にしてまでお母さんとコミュニケーションを取る。そして言葉。言葉話すために生後数か月たつと喉が広がってくる。そうすると気管にものがつまりやすくなる。つまり死の危険を冒してまで言葉話すことを選んで進化したのが人間で、これが家族を形成しています。動物的生命を危険にさらしてまで人間的な生命つまり精神を維持し

ていこうとしているのです。下手すれば死んでしまふという状況に常に身を置いて、そうして家族を形成している。「ご先祖」という形の死者との関わりもあります。家庭は「生老病死」が営まれ、死者との交流が営まれる場所なのです。そういう「死」を含んでいるわけがない家族、家庭というのが重要なのですが、今は社会の方が価値が高いと思ひ込まれています。

祈りの経営

逆転の発想と経営は男のロマン



プロフィール
 学習院大学政経学部卒業後、阪神百貨店に入社、取締役社長、会長、相談役を経て、近畿百貨店協会会長などを歴任、2007年にサエグサ流通研究所を設立し、現在に至る。

みなさん、こんにちは。私は四十数年間阪神百貨店に在りまして、社長・会長を務めました。阪神・阪急の統合騒動があり、阪神百貨店の会長と阪神電鉄の専務を退任しました。その後、「サエグサ流通研究所」という会社を設立しました。小売業の現状を簡単にお話しますと、都心は過剰店舗状態。一方地方は人口減や高齢化で店舗が減っている。百貨店は二十数年間ずっと売上で年比を割り続けております。「コンビニだけはまあまあ。今一番売れているのはネット販売です。小売り全体で年間十八兆円のうちネットだけで十一兆円。百貨店は六兆二千億。ネット売上が増えると当然既存店舗の売り上げが減ります。では百貨店の売り上げがなぜこんなに悪くなつて来たのかと言え、他の店やネットに食わ

ン」つまり仏壇仏間の存在。また檀家制度のポジティブな側面。家に仏壇があつてそこにお坊さんが出張して来る、日本独特のもの。そこには家族という縦のつながりがある。そういう意味をお仏壇は持っていました。核家族の中でそれがどうなつて行くのか、それが課題です。しかし家庭より社会が大事となつてくるとどうなるでしょうか。社会に、具体的に言えば「会社」に仏壇はありません。そこを考え直す時期にきています。

株式会社サエグサ流通研究所
 代表取締役

三枝輝行氏

れて来たこと、売上ばかり追求して来たことです。今売れている物しか売らない、売上的ために店を巨大化する。それを止めないと高齢化が進んだ時はどうするのか。

今、百貨店の唯一の武器は食品です。ネット販売が売れるのは便利さと好奇心。お年寄りには買物に行けないからネットで買う。健康食品が売れるのは、効かなくても飲んでいれば安心する健康な人しか飲まないから。これからの商売のキーワードとして、「二つ目は「便利さ」。二つ目は「お客様の所に行くか」。昔の「御用聞き」ですね。電器屋は電球一個からサービスで配達する。すると人情として冷蔵庫なんかも買うようになる。

阪神百貨店の食品売場がなぜ日本一になったのかをお話します。当時、売れ筋商品はみんな一位の阪急に入るので阪神は勝てず、また食品は利益効率が悪いからと手抜きされてきました。しかし私は食品にしか生きる道はない、これに懸けようと思ひました。そこで何をしたらかと言いますと、まず、食品売り場の通路をこれまでの三mから八mにドーンと広げました。フロアを整理するのに三年かかりましたが、カテゴリー別に集めると何が多くて、何が足りないのかが見

えて来たので、全国に商品を探し歩き、それまで商品を採用するための審査に一年がかりだった仕組みを一週間に短縮し、全国の珍しい商品が阪神百貨店に集結しました。そして、百貨店は「非日常の場」と言われていたのを、毎日気軽に来られる「日常の場」に変えました。「自分の市場」にしてみらうことを徹底しました。一年もしたら平日も土日も売り上げが殆ど変わらなくなりました。また事務所のスペースが空いたのでそこを果物売り場に、果物は売れないという既成概念を壊し、スーパーと同じように新鮮で美味しい物を並べたら繁盛しました。

それともう一つ、「お祭りの広場」を作りました。お祭りは楽しいので屋台で買うものを高いとは思いません。百貨店も同じことです。確にお金をかければいくらでも綺麗な売り場は作れます。でもそこには愛情や心がありません。飛騨高山で愛情をかけて牛を飼っている人がいますが、八〇〇頭の牛の名前から体調の変化から全部憶えているそうです。愛情をかけた牛と手抜きをした牛とは肉質が違います。私は社長になつて七年半、毎日ショートケーキを三つずつ家に持ち帰って食べました。美味しいかどうかは食べないと分からないからです。売り上げの落ちたケーキはイチゴを十円から六円に下げた。十円に戻させたなら回復。消費者は「これくらい、いいやろ...」とこのをちゃんと見ています。医者に止められてやめました。日本一の食品売り場になりました。

話題を変え「経営は男のロマン」というお話をします。ある時、熊本の建売屋の社長と印刷屋の社長から電話があり、熊本市にある岩田屋という店が潰れて競売にかかっているのを助けてほしいと言われました。勿論先に大手百貨店にもお願いに回つたけどみんな断られた。阪神百貨店も最初は断りました。しかし、一度も現地を見ないで断るのは失礼と思ひ、一週間後熊本に行きました。会つてほしい人がいるというのでホ

テルに行きますと、県知事以下大勢の人たちが待っていて、百貨店が潰れたら五千人からの人が失業する、何とか助けてほしいと言っただけです。百貨店のことで来たのに熊本県を助けてほしいというのには驚きましたが、とりあえずその百貨店を見に行きました。従業員には大阪の百貨店が来て助けてくれるかも知れないという話が既に流れていたもので、皆すぎるような目で見ます。私は帰りの飛行機の中で何とかしてあげようと決意しました。役員会にかけて保守的な親会社の役員たちの反対に遭って否決されたら阪神百貨店の社長を辞める覚悟で懐いて辞表を持って役員会に臨みましたところ、熊本の人たちを何とか助けたいという私の迫力の前に誰一人反対する役員も無くあっけなく通ってしまいました。さあ熊本のマスコミは連日

講演(二回目)

いま再び「利他」のころを考へる。他者に何ができるか。

「PRAY for (ONE)」のころ。



プロフィール
日蓮宗僧正。1963年、東京都に生まれる。1991年、27歳で足立善立寺の住職となる。2000年より(財)全日本仏教会の評議員を2期つとめ、2007年、東京都仏教連合会の事務局長に就任、2015年、東京都宗教連盟の事務局長に就任する。

本日はお招きいただきありがとうございます。課題の「利他のころ」について、「祈る」「願う」ということをどう捉えるか。仏教者における視点でお話させていただきます。

まず初めに、プレイフォワードという活動のはじまりですが、私はちょうどバブル崩壊の時期に仏教会の活動に入りました。この頃「これから、物質的な豊かさではなく、心の豊かさが必要

大騒ぎです。銀行はいくらでも使ってくれと言ってくるし、大手企業も出資してあつと言つ間に六億円も集まりました。そして最初に頼みに来た二人を役員にしました。これが私が百貨店を再生した最大の功績です。オープン前夜のパーティの席で熊本政財界一の大物から「久しぶりに男の夢とロマンを見ました」と言われた時には「やって良かった」と心から思いました。そしてオープンの当日は熊本県民市民挙げて祝ってくれました。タクシーの運転手さんまでも「三枝さん、熊本を助けてくれてありがとうございます」と言ってくれたのには感激しました。阪神にとっては何のメリットも無い事ですが、男のロマンというのはいかに自分の信じた道を貫き通すかということだと思います。皆さんたちあまり遠慮せず自分の思ったことを貫き通してほしいと思います。

東京都仏教連合会事務局長
善立寺住職

新倉典生氏

です」という話が巷に溢れました。私たち僧侶も、いよいよ仏教の番ということで期待しておりましたが、言われるほど仏教は「心の豊かさ」の受け皿にはなれませんでした。これは私たち僧侶や仏教会のあり方も反省しなければなりません。

数年後、東映が制作した「ブッダ」というアニメーション映画で、プレイフォワードができるきっかけがありました。実は、全日本仏教会がこの機会に「お釈迦様」を身近に感じていただくことと「ブッダ」の広報協力を本気でやることになりました。これは我々が心の時代の担い手になれなかった反省から、仏教と一般社会との距離感を少しでも近づけていこうという取り組みです。宣伝の一環として全国の寺院に「ブッダ」のポスターを貼っていただきました。その時、漫画のポスターは貼れませんかといった寺院もあり、いかに

仏教界が古い体質かということがわかりました。当初は寺院だけの参加でしたが、徐々に宗教関連企業の方々にもお声がけし広報の輪が広がっていききました。そして、この時にご協力いただいたメンバーが、現在のプレイフォワードの主な役員になっていきます。映画のロードショーは、この年の四月八日だったのですが、三月十一日に東日本大震災が起きてしまいました。緊急の話し合いが開催され「今は仏教再生なんて言っている場合じゃない」「我々は被災地支援に行動しなきゃ」という発言もあり、このプレイフォワードの前身である集まりはいったん解散をしました。

震災から三年が経過し少し落ち着いた頃、「ブッダ」で思いを二つにした人たちが再び集まり、現在の活動に繋がっていきます。震災前は「仏教再生には広報活動が必要だ」とその程度に思っていました。震災を経験した後は、それがまったく違う考えをもつて集まりました。「我々は人のために何ができるのか、何を伝えるべきか」と真剣に各業界で話し合い、共有できる伝えるべきことは「祈り」だという結論に達したのです。プレイフォワード、他人の為に祈り、支え、絆を結んでいく大切さ、震災を経験して強く感じたこと、これが私たちの考へる「利他のころ」です。

利他についてももう少しお話しします。利他とは「思いやり」です。仏教には「自未得度先度他」という言葉があります。安らからで幸せに満ちた悟りの世界があるとして、その境地へ自分が先に到達するのではなく、人をまずそこへ導いてあげなさいということ。自分の能力を最大限に活かして他人に尽くすということ、簡単に言えば「お先にどうぞ」ということですが、ついついは先にと欲張ってしまい、なかなか行為に移すのが難しい事ですね。宗教はもと利他の祈りです。もちろん自分の心を整える教え、もしくは悩みをもった時の抛り所でもあります。た

とえば、愛する誰かが亡くなった時我々は冥福を祈らずにはいられません、こうした感情は誰にでも備わっている思いやりですが、これを行為や儀式にして行動することが重要なんです。

「祈願」という言葉がありますが、「祈」というのは神様や仏様が必要な行為、祈願の「願」は自分の中にある願望のこと、この2つの言葉は辞書によると同じように解釈されますが、私は少し違うと考えます。

人の願いは自分の力では叶わないことも多くあります。自身の無力さを痛感することもありますが、この願望を「祈り」に込めて、ひとたび神様や仏様に願いを委ねると、そこに宗教心や信仰心が芽生え、安心に繋がり、心の強さも生まれてきます。これが祈るといふ行為の素晴らしいところだと思えます。

先日私のところに訪ねてきたお婆さんは、旦那様を亡くし、家族が無宗教ということで宗教者を呼ばず、自分たち家族だけで直葬をしたそうです。ですが、宗教者に祈ってもらえなかったことを不安に思い訪ねてきました。お話を伺って、本堂でお婆さんと一緒に祈りをいたしました。それから数日後、今度は息子さんが訪ねてきて、「母親はお寺に行ってお祈りした日から、悲しみを乗り越えてとても強くなった感じがする。それなのに自分はこんなに父親の冥福を願っているのに不安で不安で」と話されました。こうした不安は、自身の中でいくら願っても解決しません。神様や仏様に「祈り」を捧げ、儀式を行うことではじめて立ち直る強さと安心が生まれてくるのです。

これからは、時代も価値観も変わっていく「個人主義」の時代になっていきます。我欲が先行し、他者への思いやりが薄れていきます。そうした難しい時代にプレイフォワードは、人のために「祈る」ことを推奨していきます。一番大事なことは先程言ったように利他のころをもつて「祈り」の行動を実践させることです。その機会を提

供するお手伝いが我々の役目です。お仏壇やお墓に参る、お葬式をきちっとやる、そういうひとつひとつの行為に一人でも多く導けたら、それはまさに仏教の教える「先度他」、安心で幸せな世界に多くの方々を導くことにつながります。ボランティア活動や人助けもそうですが、願うだけではなく、「祈り」を行動に移すことが大切なのです。

《このあと祈り紙をみなさんで折りました》

「祈りと感謝」を考える。



プロフィール
東京大学文学部宗教学・宗教史学科卒業後、ロンドン大学神学・宗教学博士号取得。神戸大学准教授を経て現職に。専門は宗教と社会貢献。2015年「第5回防災コンテスト」で優秀賞受賞。

宗教社会学という学問の領域から「祈りと感謝」、利他のお話をさせていただきました。

まず阪神淡路大震災の時に全国からボランティアが駆けつけ、これを境に日本社会が思いやり社会になっていくのではないかと言われました。ところがその後、日本社会はそうはならず、人と人との繋がりも薄れていました。

わたしは「ダメ出し評価社会」と呼んでいます。人々を使えるか使えないかで切り捨ててゆく、深い人間関係を作るのが難しい社会です。そして東日本大震災の前年には日本は無縁社会と言われていました。そんな中、私は思いやり格差社会という言葉を使って社会の実態を論じたことがあります。人々の思いやりの度合いに差が開き、これは大変なことではないかと警鐘を鳴



大阪大学大学院 准教授

稲場 圭信氏

らしました。

毎年内閣府が行っている社会意識に関する世論調査によると、東日本大震災前は自分本位であるというのが圧倒的に多い結果となっていました。損得が優先され、思いやりという言葉が偽善とレッテルを貼られる社会になります。

一方で行き過ぎた利己主義の風潮に疑問を感じる人もいて、思いやり格差の二極化が進む時代となります。今こそ、支え合う、思いやり社会を作らねばならない、と考えていますが、講演会やシンポジウムで必ずこんな質問や意見を受けます。理想的なことを言っても世の中そんなに甘くはないのではないかと。しかし私達がそれは理想的だから無理ということを目をそらしてしまったり次の世代に何をバトンタッチしているのか。できるかどうかではなくある種の理想を持って社会と関わっていかなければいけないのではないかと。その中の一つに宗教的信念というものが、また利他主義という事もあるかもしれません。利他主義という言葉の学問的な定義は「自己の利益ではなく、時には自己を犠牲にしてまでも他者のために起こす行動や他者を思いやる態度」ですが、これはあまりにも崇高な定義で、実際には難しい事だと思います。そして

この利他主義を課題として研究所をハーバード大学が戦後まもなく立ち上げました。戦争で多くの命が失われ、二度と起こしてはいけないというところから戦争学や平和学、或いは人間の心の闇を解き明かすために犯罪心理学、そういった研究が社会科学のなかで発展しました。確かに人間の心の中には黒い部分があるが一方で思いやりもある。このハーバード大学での研究はキリスト教からの視点がメインでしたが、世界の様々な宗教が利他の精神と関わっています。宗教と利他性は非常に強い関係性があるということが研究の結果明らかになりました。教会に参加している人はボランティア活動等に参加する割合が高い。

では日本ではどうでしょうか。宗教心意識調査ではアメリカは八割が神を信じているのに対し、日本では自分を無宗教と考える人が七割位います。しかし助け合いという観点では世界から見ると日本は非常に高い助け合いの精神を持つた国です。宗教人口が少ないのになぜ助け合いがあるのか？ ひとつは「間人主義」。相手と自分を分けるのではなく対人関係の中に自分というものを置く。もうひとつは「和合倫理」。和を乱さない、調和に最大の価値を置く道徳意識です。もうひとつは「生命主義」。宇宙全体をひとつの生命の現れと見る思想で、物にも魂が宿るという考え方です。針供養などは世界的にはとても珍しいことです。日本人の宗教性は、無宗教が七割でも初詣やお墓参りに行く人は数多くいます。宗教心ではなく漠然とした日本人の精神性の中にあるもの、「無自覚の宗教性」、その心が思いやりの感覚ではないかと考えます。

無自覚に漠然と抱く自己を超えたものとの繋がり感覚と、先祖、神仏、世間に対して持つおかげ様の念、こういった漠然とした感覚が無宗教といつても日本人の中にはあります。普段は宗教的な行為をしていなくても伝統的宗教儀礼を行っている人、これは七割以上います。こ

ういった人は自分自身で無宗教だと思ってもボランティア活動に参加しやすいとデータ上で見えてきています。

東日本大震災で宗教は大きな力を発揮したと私は考えます。普段それほど信心深いわけではないのに自然と祈っている人が殆どでした。振り返ってみると東日本大震災は宗教者の利他主義、共感縁による「寄り添いのケア」、無自覚の宗教性によるボランティアもありました。

先ほどお話しした世論調査ですが、東日本大震災の後は何んとも思いやりがあるという考え方が以前の二倍の20%に増え、一方自分本位であるというの減りました。日本人の心には何らかの変化が生まれたんですね。そのうち風化して元に戻るよという意見もあります。私も社会学者ですからそれらに対し、この数値は下がっていくでしょうと評論家的にコメントする事は簡単です。しかし今を生きる一人として私はとてもそういうふうには言えません。これをどうにか支えて、そして支え合う社会を作るにはどうしたらいいのかと考え次の世代に伝えていく責任が我々にはあるのではないのではないのでしょうか。

政教分離も一昔前とはずいぶん変わってきました。困っている人、苦しんでいる人に寄り添う、その人の為に祈る。そんな利他的な行いに行政、宗教者、一般人そういった垣根を超えて関わっていくという動きが出てきています。災害時に命を守る助けに関することは、宗教施設を一時避難所にするなど、行政との連携も進んでいます。それを形にしているというところで、「未来共生災害救援マップ」(http://www.respect-relief.net)というものをわたしの研究室で作りました。これは全国にある指定避難所および寺、神社、教会等の宗教施設、指定避難所のデータを全国で約30万件を集積しています。双方向的な発信ができますので、活用いただけたらと思います。

PRAY for (ONE) 具現化ワークショップ

広報委員長 保志康徳氏



二日間に渡り、多才な素晴らしい先生方のお話をみなさんと共有できて、本当に良かったと思っております。

これからこのPRAY for (ONE) をどう展開していくかということで、このあとグループに分かれてワークショップを行います。

それぞれ具体例を出し、ご自分のお店でどう活用していくか、そして小さな広がりが大きく全国に広がって、「祈りの文化」というものを今一度日本の方々に気づいていただき、最終的には、仏壇仏具に繋げていけたらと、そういったことが一つの狙いでございます。

もう一つは東京オリンピックまでこの「祈りのプロジェクト」を続けていこうというビジョンがあります。海外からたくさんの方がいらっしゃった時に、日本には素晴らしい文化があるという事に気づいていただいて、そしてその文化の発信がこの全宗協のみなさんの一つ一つの活動によってできたという、言ってみれば祈りの文化の新しい歴史を皆さんと創っていければこれは最高に良い事ではないかなと思います。

先ほどの講義の中でお話がありましたが、この祈りのプロジェクトを利他というところに結びつけて進めていけたら良いのではないのでしょうか。私も利他というとか犠牲になる気持ちがあり、初めは抵抗感もありましたが、ある時ちょっと考えました。みなさんも学生時代の部活の時なんかを思い出してください。おなかがすいてパンを買った時、他におなかをすかせた同じ部活仲間が通る、その時パンを半分に分けてあげる。一緒に食べるとなんとも言えない心の豊かな気持ちになりますね。これが利他なんじゃないでしょうか。

昔は仏壇に手を合わせるというのは小さいころからの習慣でしたが、今、残念ながら、仏壇を家に置いている家庭が23%（都下）殆どの家庭で仏壇に手を合わせるという光景を見てないのです。そういう人たちに誰が、どういう文化を植え付けていくか、それが我々のこの業界です。

このPRAY for (ONE) は今までの祈りの形にプラスアルファし、新たな祈りの形を創っていきましょう、今まで縮小していた需要を増やしていこうというのが重要な役割です。

具体的に何かというと、利他ということですね。大切な人のために祈る習慣、これを創っていきましょうと。これが新しい祈り文化や優しい社会の構築に少なからず影響を及ぼしていくと思います。

ですから私達組合としては外に向けて私達から発信をしなくてはなりません。心の文化というのは、私達がやらなくて誰がやるのかという、いわば私達の使命なのではないでしょうか。

ぜひこれを楽しくどう展開していくか、自分達で出来るところから、みなさんとやっていきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

「PRAY for (ONE) 」プロジェクトを どう日々の事業を通して具現化していくか

グループリーダー1名につき、全9班に分かれ、ワークショップのルールの説明があり、

1. 接客現場/手法において(自社営業)
2. サービス/商品開発において(自社商品開発)
3. 人事/労務管理において(マネジメント・社内に浸透)
4. 社会貢献/組合活動において(組合・地域活動など外部向)

以上の4項目について自由闊達にアイデアをどんどん出していただきました。各班のメモ用紙を模造紙に分類して貼り付け、それぞれマジックで島作りをしたり、これはと思うアイデアに印を付けてもらい、プレゼンテーションを行いました。



●2班 日本香堂 榎原教文 班長

私どもは、「思い」と「企画」と大きく二つに分けました。「企画」の方では商品開発など、「思い」の方には「**PFOの歌**を作る」「**ゆるキャラ**を作る」など話し合いました。



●1班 尾張屋 横井浩 班長

我々のグループは講義から発想したことを気軽に書き出し、「**祈り鶴を使った活動**」をどう「**販促**」に使えるか? というテーマで話し合いました。

●4班 山本佛具店 山本裕基 班長

私たちは日々家族とのつながり、人は誰かと繋がっているものだよねという思い浮かべてもらい、**世界に広がると活動が素晴らしいもの**になると思います。



●3班 日本宗教用具 前田平八 班長

一個だけ太陽マークを付けて「**これイイじゃん!**」としました。**PFOのアドバイザー**を広い地域で育成するのがいいのではないかと話し合いました。

●5班 かじそ仏壇製作所 星野美樹 班長

商品開発についてのサービスですと3月27日の仏壇の日がありますが、**毎月27日を「祈りの日」として**、祈り鶴の供養の日という形にしてはどうかと言う意見が出ました。



「PRAY for (ONE)」協賛団体の東京都仏教連合会・日本石材産業協会・全日本葬祭業協同組合連合会・フューネラルフラワー協会・日本エンディングサポート協会・京都ジェンヌの会・東北博報堂（敬称略順不同）の方々のご参加をいただき感謝申し上げます。

●6班 安田松慶堂 安田元慶 班長

子どものグループは **祈り鶴を販売して寄付**をする、**介護の現場**で活用できないか、他業種と大きなイベント開く、**次世代の子供向け**に祈る大切さをアピールするなど貴重な意見をもらいました。



●7班 梅栄堂 中田宗克 班長

PFOを「**知ってもらおう**」「**結びつき**」「**どんな有益性**」があるのか大きく3つに絞って話し合いました。一年後にまた実績をプレゼンして総括するのはいかがかなと話し合いました。



●9班 杉浦佛壇店 杉浦伸司 班長

我々は理念の部分、「祈りの啓発」という事ですが「祈る」という事は、行動を伴わないと「**他がために祈る**」という事にはなりません。**地域の色々な行事参加**の時に PR するなど意見が交わされました。



●8班 廣川仏壇店 廣川俊輔 班長

私たちの班は「**女子高生に拡げる**」十代の女性のパワーはすごいので、「なんか祈り鶴って**カワイイ**よね〜」とか「祈るって**おしゃれ**だね」といったほわっとした感じで広がったら、その子たちが大きくなった時に日本の祈りの文化が蓄積されていくんだろうなあと思います。



皆さまから素晴らしいアイデアを出していただき、ありがとうございました。会報とは別にA3版のアイデアマップを別紙折り込みましたので、是非ご参考になしてください。

総評 小堀賢一理事長

つい先日、仏壇公正取引協議会で、漆塗りの定義が決まりました(P10、11参照)。「漆塗り」が、スペックつまり仕様という意味で確定したのです。全宗協の研修でも、以前はスペックに関するテーマが多かったのですが、実際のお客様の注文は、例えば欄間彫刻の場合なら、特定の寺院の欄間と同じ図柄がいい、と希望されます。この場合過去の施工事例や下絵がたくさんありますので、それを手がかりに図柄を描くことができます。現在では、製造に携わる技術者いわゆる職人が、自ら山に行き花を描いたり動物園に行き動物を描いたり、そういうことは殆どしなくなりました。ですから伝統的工芸士といっても物づくりはしますが創造の分野は少なくなりました。そういう状態が続くと、消費者の目線からはある種の魅力がなくなっていくのでしょ。今は必ずしもスペックに拘らない、祈りを引き起こさせる製品、それが求められていると思います。これもハードからソフトへの転換でしょう。

最近の日本には世界中の様々なものがありますが、「日本にしか無いもの」がありません。日本人の魂や心といったことで語るものが極めて少ないです。これも、PRAY for (ONE)を進めようということになった一つの背景です。

我々の宗教用具はどういう役割を果たすかということ、日本人の倫理観や礼節の正しさに結びつきます。つまり祈りと言っても何かがないと手を合わせにくいものです。宗教用具があつてこそ、祈りという行動が引き出せると考えています。もしかしてこれは日本人特有かもしれませんが。物があつて心が動かされる。家庭に礼拝場所があるというのは、世界的にみても特異なこと。我々の業界内だけでなく、消費者全体に対して発信するというのは、あまりにも対象が大きすぎて年数もかかると思います。東京オリンピックまであと五年ですが、海外の人が日本に目を向けていただいている時期ということでは、非常に大きなチャンスであると思います。

来年もすでにこちらの会場で10月5日・6日を予定していますので、お越しいただければと思います。

二日間お疲れ様でした。

仏壇公正競争規約

表面仕上げの漆に関する表示が変わります — 施行規則等の改定

仏壇公正競争規約施行規則別表3の改正、及び、運用要領第2条（金仏壇の正面表面仕上げ、唐木仏壇の表面仕上げ）を追加する改正が、2015年9月14日、消費者庁及び公正取引委員会に承認され、2016年4月から施行される。

「漆仕上げ」と表示して良い条件は、新しい施行規則別表3で「精製漆を塗って仕上げたもの。ただし、精製漆の量（顔料が含まれている場合は顔料の量を含まない。）に対して更に10%以内の量の硬化剤（樹脂である硬化剤を含む。）並びに所要の機能を得るために必要な量を超えない量の添加剤、顔料及び溶剤を加えたものも含む。」とされた。

漆を含んだ塗料で仕上げているが「漆仕上げ」の条件を満たさない場合は、精製漆の量が50%以上か未満かで、各々、「漆・樹脂混合仕上げ」、「樹脂・漆混合仕上げ」と表示する。

漆でないものに「合成漆」、「新漆」など漆を含む表示用語を用いてはならない。

なお、運用要領では、施行規則で用いている「精製漆」、「硬化剤」、「添加剤」、「顔料」、「溶剤」、「所要の機能を得るために必要な量を超えない」の定義や、「樹脂・漆混合仕上げ」の樹脂の表示義務を定めている。

仏壇の表面仕上げの漆に関する表示は、2012年の仏壇公正競争規約認定以来の懸案であったが、都道府県の公設試験場の塗料、漆担当技術者の皆様からご指導を受け、漆精製業界、漆器業界とも連携・調整の上、とりまとめることができた。

この場をお借りして、ご協力いただきました皆様に深謝致します。

◎仏壇公正競争規約等については、仏壇公正取引協議会ホームページをご覧ください。

URL <http://www.butudan-kousei.com>

◎ご不明の点は、仏壇公正取引協議会事務局まで、お問合せください。

電話 03-6206-0572 FAX 03-6206-0574

E-mail butudan-ftc@garnet.bforth.com

1. 施行規則別表3 金仏壇の正面表面仕上げ、唐木仏壇の表面仕上げ(下線は変更部分)

区 分(表示用語)	内 容
漆仕上げ	精製漆を塗って仕上げたもの。ただし、精製漆の量(顔料が含まれている場合は顔料の量を含まない。)に対して更に10%以内の量の硬化剤(樹脂である硬化剤を含む。)並びに <u>所要の機能を得るために必要な量を超えない量の添加剤、顔料及び溶剤を加えたものも含む。</u>
<u>漆・樹脂混合仕上げ</u>	精製漆及び樹脂の混合塗料の量に対して50%以上の量の精製漆を含む塗料を塗って仕上げたもの
カシュー仕上げ	カシューかく油等を樹脂化した塗料で仕上げたもの
ウレタン仕上げ	ポリウレタン樹脂塗料で仕上げたもの
<u>樹脂・漆混合仕上げ</u>	樹脂及び精製漆の混合塗料の量に対して50%未満の量の精製漆を含む塗料を塗って仕上げたもの
セルロースラッカー仕上げ	セルロースラッカー塗料で仕上げたもの
ポリエステル仕上げ	ポリエステル樹脂塗料で仕上げたもの
オイル仕上げ	油性塗料を含浸させて仕上げたもの

注1 金仏壇は、台輪(上台輪も含む)、大戸ごとに正面表面仕上げを表示するものとする。

注2 油性合成漆塗料は、カシュー仕上げと表示する。漆でないものに「合成漆」、「新漆」など漆を含む表示用語を用いてはならない。

注3 その他の塗料を使用した場合も区分(表示用語)に準ずる。

2. 仏壇の表示に関する公正競争規約運用要領(下線は変更部分)

(第1条 略)

(金仏壇の正面表面仕上げ、唐木仏壇の表面仕上げ)

第2条

規約第4条第1項第1号ウ及び施行規則第3条第2項第2号、並びに規約第4条第1項第2号エ及び施行規則第3条第5項第3号に基づき施行規則別表3(以下「別表3」という。)に規定する「精製漆」とは、漆の木(ウルシ科ウルシ属植物)の樹皮に傷を付けて、浸出した樹液(その主成分がウルシオール、チチオール又はラッコールであるもの)を採取、精製し、又は更に、天然由来で伝統的に用いられてきた樹脂、添加剤、顔料、溶剤等を加えて作った塗料をいう。

2 別表3に規定する「硬化剤」とは、吹付塗装を可能とするため漆の量に対して固形分比10パーセントを超えない範囲で必要最小限の量を添加するもので、塗料の硬度の増進又は硬化反応を促進若しくは制御するために用いられる橋かけ剤、樹脂、その他の変性剤をいう。

3 別表3に規定する「樹脂・漆混合仕上げ」の樹脂について、当該樹脂の量に対して固形分比50パーセントを超える樹脂名を付記しなければならない。2種類以上の樹脂を使用している場合で、50パーセントを超えるものが無い場合は、最も多く使用されている樹脂から順に、その合計が50パーセントを超えるまで付記するものとする。

4 別表3に規定する「添加剤」とは、塗料に少量添加して、その性質の一つ若しくはそれ以上を改善又は変性する物質をいう。「顔料」とは、着色などのために加える微粉末をいう。「溶剤」とは、塗料のうち、揮発して塗膜成分にならないものをいう。

5 別表3に規定する「所要の機能を得るために必要な量を超えない」とは、技術的に妥当な量の上限を超えないことをいう。技術的に妥当な量の上限について争いが生じた場合は、仏壇公正取引協議会規約委員会が、漆及び塗装技術の専門家の意見を聞いて判断するものとする。

(第3条～第8条 略)

附 則

この運用要領は、公正取引委員会及び消費者庁長官に届け出た日から施行する。

この運用要領の変更は、平成28年4月1日から施行する。

小堀賢一氏 旭日小綬章受章祝賀会

平成27年10月26日、京都ホテルオークラにて小堀賢一氏の旭日小綬章受章祝賀会が行われました。

280名の方が参加され、盛大な会となりました。

京都府知事 山田啓二様、京都市長 門川大作様、全日本仏教会理事長 齋藤明聖様、真宗大谷派宗務総長 里雄康意様、全日本宗教用具協同組合相談役 安田松慶様よりご祝辞を賜りました。

小堀賢一氏は全日本宗教用具協同組合 理事長を始め、仏壇公正取引協議会 会長、仏事コーディネーター資格審査協会 会長など私共の業界でリーダーとして八面六臂のご活躍をされております。この受章を機に益々業界発展の為にご尽力いただき、私共をお導きいただきたいと思います。

この度はおめでとうございます。



おめでとうございます

平成27年度仏事コーディネーター試験合格者一覧

東京会場合格者(33名)

- 白倉 正和 (株)福宝
- 湯田 晃子 (株)福宝
- 宮下 卓也 (株)福宝
- 草住 里江 (株)福宝
- 弓納持 智香 (株)福宝
- 鳥羽 由乃 (株)小島仏具店
- 久保田 真史 日本宗教用具(株)
- 小渡 直征 (株)保志
- 久志 隆仁 (株)保志
- 渡部 静枝 (株)保志
- 渡部 かほり (株)保志
- 木角 竜真 (株)保志
- 桑原 史成 (株)小嶋源五郎本店
- 飯島 美希 (株)JA東京中央 セレモニースタッフ
- 志賀 はるか (株)太田屋
- 田尻 めぐみ (株)神奈川こすもす
- 後藤 三千代 (株)小堀
- 笹山 大介 (株)滝田商店
- 中田 雅也 (株)お佛壇のやまき
- 山田 佳苗 (株)お佛壇のやまき
- 和田 華奈 (株)モリアルートの大野屋
- 福島 杏奈 (株)モリアルートの大野屋
- 永野 建 (株)モリアルートの大野屋
- 横田 慧美 (株)モリアルートの大野屋
- 高田 常子 (株)モリアルートの大野屋
- 田島 佑樹 (株)吉連堂
- 中村 薫 (株)吉連堂
- 本間 慎司 (株)吉連堂
- 三木 秀昭 (株)吉連堂
- 木ノ下 秀一 (株)吉連堂
- 鈴木 一央 (株)鈴文
- 長埜 久美子 日本堂(株)みず平佛具店
- 酒井 仁 (株)紫雲堂

大阪会場合格者(46名)

- 水野 陽平 (株)大黒屋仏壇店
- 野依 康人 名古屋神仏具(株)
- 秋田 省吾 (株)秋田仏壇店
- 秋田 雅彦 (株)秋田仏壇店
- 森下 健一 (株)秋田仏壇店
- 二宮 青 (株)秋田仏壇店
- 花土 京子 (株)中原三法堂
- 星野 光範 (株)仙台屋
- 関川 克美 (株)大越仏壇
- 市山 徳子 (株)大越仏壇
- 石井 保宇 オドナ・スタイル(株)
- 市橋 孝昌 森正(株)
- 能登谷 藍 (株)永田屋
- 堀江 吉光 (株)永田屋
- 安藤 秀幸 (株)永田屋
- 内田 真由美 (株)中原三法堂
- 水野 智之 (株)永田屋
- 竹中 三夫 (株)ひょうま
- 後藤 徹 (株)ひょうま
- 井上 義隆 (株)Aやすきセンター
- 菊永 和俊 (株)Aやすきセンター
- 内田 久聖 (株)おの佛宝堂
- 羽野 和良 (株)大越仏壇
- 井本 康弘 (株)アス平
- 坂昌樹 (株)Aやすきセンター
- 西岸 直哉 (株)二村松
- 本多 誠 (株)永田屋
- 井上 裕規 オドナ・スタイル(株)
- 佐藤 未来 (株)中原三法堂
- 猿渡 裕子 (株)中原三法堂
- 岩崎 浩司 (株)中原三法堂
- 秀平 智宏 (株)中原三法堂
- 大松 真紀 (株)中原三法堂
- 米田 誠 (株)中原三法堂
- 山本 由美子 (株)中原三法堂
- 又木 善紀 (株)中原三法堂
- 藤本 克己 (株)中原三法堂
- 山下 貴史 (株)佛壇の山下屋
- 山錦 拓治 (株)世良仏壇店
- 小川 剛史 (株)越前屋
- 望月 涼子 (株)翠光堂吹田店
- 高木 敦史 (株)人形のはなぶさ
- 英浩之 (株)人形のはなぶさ
- 結城 政夫 (株)人形のはなぶさ
- 中森 君介 (株)のいり
- 廣瀬 直也 (株)のいり

事務局からのお知らせ

1. 当面のスケジュール

- 平成28年2月23日(火) 役員会・研修会(東京 エッサム神田)
- 平成28年4月19日(火) 役員会(東京 エッサム神田)
- 平成28年5月24日(火) 第29回 通常総会(富山国際会議場)
(懇親会・宿泊会場 富山全日空ホテル)
- 平成28年10月5日(水)～6日(木)全国研修会(メルパルク京都)

2. 組合員数 平成27年11月30日現在 369名

新規加入者 平成27年6月20日以降

- ①素心(株) 浜田和光様(9月15日)
- ②(株)紫雲堂 酒井 仁様(9月15日)
- ③(株)のいり 野杵晃充様(9月16日)

3. 組合関係者の訃報(平成27年6月20日～27年12月10日) (北越地区)

(株)関菊 代表取締役 関 秀道様ご尊父 関 豊様
平成27年6月21日 86歳

